書評フォーラム

森本あんり著『アメリカ的理念の身体――寛容と良心・政教分離・信教の自由をめぐる歴史的実験の軌跡』をめぐって

（創文社、2012）

遠　藤　泰　生

2012 年 12 月に森本あんり著『アメリカ的理念の身体―寛容と良心・政教分離・信教の自由をめぐる歴史的実験の軌跡』（創文社）が刊行された。「アメリカ社会における宗教の多面的・複層的な発現形態」（本書 4 頁）を問うこの著書の持つ意味は大きい。アメリカ宗教史の研究成果が必ずしも厚くない日本のアメリカ研究にとってはなおさらのことであろう。

本号では、書評欄における新たな試みとして、フォーラムを設け、寛容や良心をめぐるヨーロッパの哲学的伝統にまで遡りながらアメリカ社会に占めるキリスト教文化の奥行きを探った本書の意義を論じ合うこととした。形式としては、遠藤泰生（東京大学）、増井志津代（上智大学）、藤本龍児（帝京大学）の 3 名に、名前を挙げた順に、主に、アメリカ地域研究、宗教史研究、公共哲学のそれぞれの視点から書評をしてもらい、それに対する著者森本の応答を掲載する形をとった。*American Historical Review* などで同種の企画に見られる形式を踏襲したものと理解していただいてよい。こうしたフォーラムを随時設けることで、日本のアメリカ研究の流れに一石を投ずる重要な問題を扱った著作に多角的な光をあて、かつ、研究者間の対話を活発化させることがこのフォーラムの狙いである。書評といっても単発の書評論文あるいは紹介文が出されるだけのことが多い日本のアメリカ研究に、何かしらの貢献ができれば幸いである。本号以降もこうした場を積極的に設けていきたい。

なお本フォーラムは、科学研究費補助金基盤（A）「19 世紀前半合衆国における市民編成原理の研究」（課題番号：23242044、代表：遠藤泰生）主催で 2013 年 3 月 11 日に行われた合評会での議論を踏まえたものであることを記しておく。